

◆物的被害 (平成25年2月1日現在)

施設名	箇所等
①道路(市道)	366 箇所
②都市公園	8 箇所
③公営住宅(22 団地)	73 箇所
④上水道	121 箇所
⑤公共下水道	28 箇所
⑥農業集落排水施設	4 箇所
⑦庁舎等(本庁、行政局4、出張所6)	12 施設
⑧学校等施設(幼稚園2、小学校42、中学校20)	64 施設
⑨社会教育施設	33 施設
⑩老人福祉施設	13 施設
⑪社会福祉施設	1 施設
⑫児童福祉施設	8 施設
⑬観光施設(あぶくま洞、グリーンパーク都路、星の村天文台、ムシムシランド)	4 施設
⑭農林業施設(農林道、ため池、用排水路)	323 箇所

3月11日(金) 午後2時46分。地面が大きく揺れ、ごう音をとどろかせ、震度6弱の地震が田村市を襲った。市は午後3時に「田村市災害対策本部」を設置。被害状況の収集に、職員が手分けして市内を駆け巡った。道路や建物の被害が目立って大きかったが、阿武隈山系のしっかりとした地盤に守られていたため、被害は小規模にとどまった。原子力発電所は、地震も津波も大丈夫という安全性を誇示していたにもかかわらず、大事故を引き起こした。

もろくも崩れた日常生活。放射能の脅威は今もなお、市全体を覆い苦しめている。復旧・復興に向けた対応は、多岐に渡った。そんな中、市内はもとより全国各地から物資や義援金など、温かい支援が数多く届いた。ボランティアの輪も広がった。人と人との「絆」が強く感じられた2年間。支えてくれた皆さんに感謝し、これまでの歩みを振り返ります。

復旧・復興の2年間
温かい支援に感謝

3.11 衝撃から復興への歩み

道路が隆起し、大きく損壊した市道小滝沢線(都路)



誰もが忘れられない3月11日。それは突然の出来事だった。今まで感じたことのない、強烈な揺れが田村市を襲った。立ってられない長い激震に誰もが恐怖を感じた。建物はきしみ、壁にひびが入り、瓦が落ちて粉々に砕けた。市が受けた被害は甚大だった。さらに追い打ちをかけるように起こった東京電力福島第一原子力発電所の事故。そこから厳しく険しい道が始まった。



避難した人で埋め尽くされた市総合体育館



地震の強さを物語る滝根公民館のホール

田村市復興の歩み

平成23年	3月	4月	5月
11日	12日	13日	14日
15日	16日	17日	18日
19日	20日	21日	22日
23日	24日	25日	26日
27日	28日	29日	30日
31日			

東北地方太平洋沖地震の発生
船引町は震度5強、滝根町・大越町・都路町・常葉町は震度6弱
田村市災害対策本部を設置
大熊町から避難者の受け入れ要請。市内施設を準備
東京電力福島第一原子力発電所1号機で水素爆発
都路町地区市民994世帯3001人に避難指示
都路行政局が本庁へ移動
全国各地から支援物資が届き始める
震災により「NHKのど自慢」開催中止
市総合体育館など避難所24カ所に8359人が避難
東京電力福島第一原子力発電所3号機で水素爆発
30キロ圏内(常葉町黒川地区・田代地区および船引町横道地区の一部)に屋内退避指示
常葉町堀田地域および船引町横道地区の自主避難

玄葉国家戦略担当大臣が市長と面談、避難所を訪問
市内小・中学校で入学式
常葉町山根地区全域を屋内退避区域に追加
菅総理大臣が避難所を訪問、市長と懇談
都路町地区の一部を警戒区域に指定
緊急時避難準備区域(警戒区域以外の都路地区、常葉町山根、田代、堀田、黒川地区、船引町横道地区)に指定
旧春山小学校避難所で都路町地区市民への説明会を開催
東京電力の清水社長が市長と面会
母と子の放射線教室(22日)
警戒区域へ一時立ち入り

土手の擁壁が崩れ落ち、市道が通行止めになった旧JAたむら美山支店の建物裏側



◆人的被害 (平成25年2月1日現在)

内容	人数
①死者	1人
②行方不明者	0人
③負傷者(重傷1、軽傷4)	5人

◆家屋等被害(平成25年2月1日現在)

内容	世帯数
①全壊	19世帯(54人)
②半壊	196世帯(737人)
③一部損壊	4,137世帯
計	4,352世帯



原発事故のため浜通りから避難する車で渋滞した国道349号